

《5月22日の公益財団法人日印協会主催「月例朝食講演会」に弊社会長の西川が参加》

2023年5月22日、午前8時15分から東京プリンスホテル2階のサンフラワーホールにおいて、公益財団法人日印協会主催の月例朝食講演会が開催された。講演のテーマは「インド太平洋の未来に向けた日印協力」で、講師は直前の5月21日に終了した広島サミットにおいて外交面での成果に大きな役割を果たした林芳正外務大臣だ。なお、ジョージ駐日大使も多忙のところを押して参加している。

公益財団法人日印協会は1903年に渋沢栄一、大隈重信などの日本の近代化を主導した先人達が、アジア地域発展のためにインドとの通商関係発展が重要であるとの認識に立ち、当時イギリスの植民地であったインドとの関係を総合的に発展させるために設立した。現在の会長は菅義偉前内閣総理大臣、理事長は齋木昭隆元外務次官である。弊社が5月8日に駐日バングラデシュ大使館と石川県金沢市で開催したセミナーで講演をしていた堂道秀明氏も評議員を務められる。

《講演の内容》

講演の内容は概ね5月20日の日印首脳会談の内容に概ね即したものであった。インドのモディ首相が「主権、領土一体性という国連憲章の原則を守ることの重要性」、「力による一方的な現状変更を許してはならないこと」、「法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序を堅持する重要性」といった広島サミットの主要なテーマについて深い理解を示し、共に協力していく姿勢を改めて明確にしたことは高く評価できることであり、「自由で開かれたインド太平洋戦略」の一段の進捗とみることができるとのことであった。

また、日印の地政学上の協力関係が一段と深まったことは経済協力関係にも大きな影響をもたらすことになるだろうという指摘があった。岸田総理大臣が2023年3月20日にインドを訪問してモディ首相と合意した経済及び経済協力や人的交流について、その一層の進捗が求められるだろうとのことであった。

《経済協力と人材交流の促進》

3月20日に日印両首脳によって確認された協力内容は以下のようなものだ。経済協力については、①旗艦プロジェクトになっている日本の新幹線方式が採用されたムンバイ〜アフマダーバード間の高速鉄道事業の加速、②日印アクト・イースト・フォーラムを活用したインド北東部の開発推進、③日印クリーン・エネルギー・パートナーシップに基づく地球温暖化対策での協力などである。また、人的交流では、①技能実習制度や特定技能制度の活用を含めた人材交流の一層の推進、②インドにおける日本語教育の促進、③日本の有償資金協力によるインド工科大学(IIT)ハイデラバード校の大学施設建設を通じたインドの高度IT人材の日本企業に対する関心の喚起などである。

ここから我々が読み取るのは、日印の地政学上の協力関係の進捗に伴い、人口が14億人を超えるインドから多様な人材が日本に供給される可能性が高まっていることである。し

かも、その人材は世界のグーグルやマイクロソフトといった巨大 IT 企業を支える高度 IT 人材から、様々な職業技術の習得を必要とする無限のポテンシャルを持つ若い人材まで、その範囲は極めて多様である。インドの送り出し機関が 23 年 1 月時点で 29 社に過ぎず、数百社あるベトナムと比べてかなり少ないことなど課題も多く、インド人の技能実習生は 347 人(2022 年 6 月時

図表1 技能実習生(特定技能を含む)の国別供給状況

国/地域	2019年12月末時点(A)		2022年6月末時点(B)			
	人数(人)	構成比(%)	人数(人)	構成比(%)	増減数(B-A,人)	増減率(B/A,%)
総数	412,593	100.0	415,161	100.0	2,568	0.6
ベトナム	219,628	53.2	234,705	56.5	15,077	6.9
インドネシア	35,593	8.6	48,658	11.7	13,065	36.7
中国	82,470	20.0	42,254	10.2	-40,216	-48.8
フィリピン	35,985	8.7	38,218	9.2	2,233	6.2
ミャンマー	13,218	3.2	19,932	4.8	6,714	50.8
カンボジア	9,610	2.3	12,189	2.9	2,579	26.8
タイ	11,404	2.8	10,942	2.6	-462	-4.1
モンゴル	2,125	0.5	2,662	0.6	537	25.3
ネパール	421	0.1	2,223	0.5	1,802	428.0
スリランカ	745	0.2	1,230	0.3	485	65.1
ラオス	560	0.1	633	0.2	73	13.0
インド	226	0.1	347	0.1	121	53.5
バングラデシュ	168	0.0	332	0.1	164	97.6

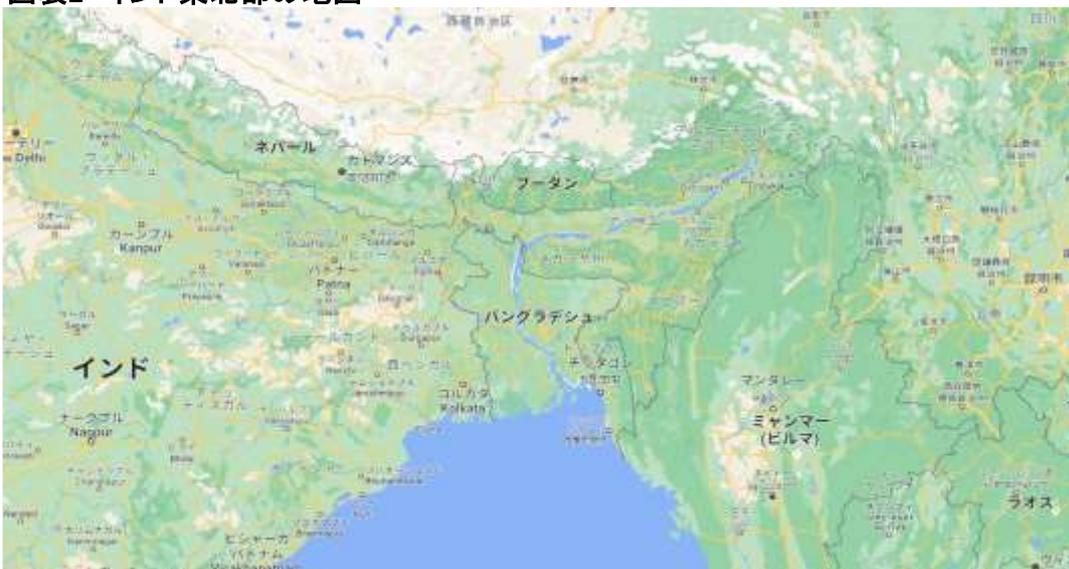
出所 法務省のデータをもとに当社作成

点)に過ぎない。しかし、質量ともに豊富な人材を抱えているうえ、日印両政府の協力の下で人材交流が積極的に進められるようになれば急激に拡大する可能性もある。2022 年 6 月末の技能実習生の人数は前年比 53.5%増と大きく増加している。

《インド北東部の人材》

もう一点、我々が注目するのは日印アクト・イースト・フォーラムである。インドはムンバイを中心とした西海岸の経済発展は著しいが、アッサム州などの北東部は大きく後れを取っている。山岳地域がほとんどであるためインフラの整備が進んでいないことが主な要因だが、中央政府との確執、山間部で散在する部族間の対立や中国との国境紛争などがその整備をさらに遅らせることとなったようだ。モディ首相はこの地域の経済発展を促すために物流ネットワーク整備やバングラデシュへの水路確保などで日本の技術力や資金力に期待を寄せているようだ。

図表2 インド北東部の地図



出所 Google Mapをもとに当社作成

開発が進めばこの地域の人材にも当然目が向くことになる。インド東北部に住むインド人は日本人と同じモンゴロイド系の民族が圧倒的に多く、その容姿は我々がイメージするアリア系のインド人とは大きく異なっており、日本人などの東アジアの人種に極めてよく似ている。実際に会ってみると非常に親しみを感じる不思議な魅力があるのである。

人種差を議論するつもりはないが、日本の高齢者のなかには外国人に対する違和感を捨てきれない人が多いのも事実であり、フェイス・トゥー・フェイスの現場などでは「日本的な」人材が過渡的に求められる可能性もある。このような特徴は、これから拡大するだろうインドからの人材供給について、選択肢の一つとして検討できるのではないだろうか。

図表3 インド北東部(ナガランド州、チャカサン族)の少女たち



出所 日印友好交流年記念事業(外務省)

《我々アセアン・フィナンシャル・ホールディングスのお役に立てること》

我々は協同組合「善美」(<https://www.zenbicoop.com>)を通して、13の国々(インド、バングラデシュ、スリランカ、ネパール、ミャンマー、インドネシア、カンボジア、ラオス、ベトナム、モンゴル、タイ、フィリピン、中国)で、22の送り出し機関と提携し、多様な人材の供給のお手伝いしております。様々なチャンネルからお客様のお役に立つ情報の提供にも努めております。

我々のモットーは、「良い人材を紹介するのは当たり前、日本一のアフターケアを目指す」であります。導入後に発生する様々な問題に対して、迅速かつ丁寧に、改善志向のソリューションを提供すること、予期せぬ問題が発生した際の対応力こそが、長いお付き合いの基本と考え、経験値を積み上げ、送り出し国のリーダーとの関係構築に努めて参りました。

我々は中長期的なお客様の人材調達戦略の最適化やスムーズな運用に貢献してまいりたいと考えております。是非、一度お時間を頂戴してご面談の機会を賜りますようお願い申し上げます。